

2022年度 統括事業所万寿 事業報告・決算概要

(養護老人ホーム「万寿園」・軽費老人ホームA型「第三万寿園」)

養護老人ホーム万寿園と軽費老人ホーム第三万寿園は同一建物内にあることから、日常の事業運営は一体的に行っている。

1 利用実績等

(1) 養護老人ホーム万寿園

ア 在籍者率

- ・ 各月初日の措置及び契約の年間在籍者率は87.6%であり前年度より5.5%減少し、年度末の在籍は措置数127名・契約入所数7名であった。

イ 入所状況

- ・ 28名の入所者(措置20名、契約8名)があった。内訳は、最も多いケースが同居家族からの虐待であり、12名にのぼる。経済的困窮や離婚等の理由により在宅継続が出来なくなったケースが9名、簡易宿泊所、精神科長期入院等からの帰来先が無いケースが5名、他養護からの措置替えが2名となっている。

また、緊急一時保護及び契約により、2名の虐待ケースを短期入所で受け入れた。

ウ 退所状況

- ・ 30名の退所者があった。内訳は、死亡13名、介護保険施設入所11名、長期入院5名、他養護への措置替えが1名であった。要介護状態が重くなっていく利用者に対し、介護保険サービスも活用しながら、可能な限り継続支援して稼働率の維持をはかりつつ、困難な場合は丁寧な退所支援を行い、利用者、家族及び実施機関との信頼関係の構築に努めている。

エ 要介護認定者

- ・ 年度末時点、134名の入所者全体の認定者率は32%であり、前年度の39%から減少した。要介護度別の割合変化を見ると、要支援①4→2%、要支援②6→7%、要介護①38→33%、要介護②15→26%、要介護③23→16%、要介護④10→16%、要介護⑤4→0%であった。

オ 介護サービス利用状況

- ・ 入浴介助のニーズが高く、ヘルパーによる介助、あるいはリハビリやアクティビティのニーズと合わせ、デイサービス利用が多い。また、福祉用具レンタルで歩行器、車椅子、介護ベッド、居室への手すり設置の利用が多い。

カ 課題

- ・ 養護入所希望利用者には個室希望が多く、二人部屋の万寿園は入所者の確保に苦戦している。しかし、逆に緩やかな見守りや声掛けがしやすい環境とも言える。
- ・ 今後も認知症や精神疾患、要介護者への理解を深め、職員のスキルアップが求められる。また、柔軟な入院対応も含めた精神科、多摩あおば病院との連携確保は引き続き非常に重要である。
- ・ 緊急入所ケースや様々な困難ケースの受け入れ、施設見学や入所時の送迎対応や手厚い退所支援など、柔軟な対応を各市区町村にPRしていく。また、契約入所についても利用例を具体的に示しつつ、より一層PRしていく。

(2) 軽費老人ホーム第三万寿園

ア 在籍者率

- ・ 待機者は年間を通じて20~30名程度ある。退所があった場合には速やかな入所を行うことで、前年度に引き続き99.8%の高い在籍者率となった。月末に介保施設への移行で退所となるも、家族対応の居室の引き上げが月をまたぐなどの止むを得ないケースで、月初日満床が達成出来ない

ことがある。

イ 入所状況

- ・ 10名の入所であった。入所事由の内訳は、ADLの低下、軽度認知症や精神疾患などによる在宅での独居継続困難が6名、同居家族との不和が2名、介保施設からの移行が2名となっている。入所直後から介保在宅サービスの利用を開始する必要がある方が多い。

ウ 退所状況

- ・ 今年度14名が退所。内訳は死亡5名、特養等施設入所5名、長期入院3名、家族同居1名。

エ 要介護認定者

- ・ 年度末時点、46名の入所者全体の認定者率は48%であり、前年度の58%から減少した。要介護度別の割合変化を見ると、要支援①14→13%、要支援②10→24%、要介護①62→50%、要介護②7→0%、要介護③7→13%であった。

オ 介護サービス利用状況

- ・ ヘルパーによる入浴介助と家事支援、デイサービス通所、福祉用具貸与の利用が多い。

カ 課題

- ・ 軽度認知症や精神疾患がある利用者への対応が増えている。
- ・ 認知症や精神疾患の利用者に対して利用者間の理解や家族の協力がさらに必要になっている。
- ・ 身元引受人を立てられない方や身元引受人が兄弟姉妹などの高齢者である方の入所申込みに対して、社協の権利擁護推進センターや成年後見制度、後見NPO等の資源活用を推進していく必要がある。
- ・ 現在の待機者の多くは心身機能の低下、身元引受人確保が困難などの課題を抱えている。このため、待機者の状況を定期的に把握し、スムーズな入所のための準備が必要である。

2 苦情処理

ア 苦情処理報告 11件

他利用者に関する苦情11件、うち1件は施設の対応に関する苦情も含まれている。

職員の対応に関する苦情は件数に上がっていないが、苦情報告の方法が機能していなかったと思われるため、改善したい。

イ 苦情委員会への報告 0件

早急に報告すべき苦情等は発生しておらず、毎年行う「苦情解決第三者委員と苦情解決責任者との懇談会」で年度内に発生した苦情の報告と委員の意見を伺っている。

3 事故・ヒヤリハットの状況

1) 事故報告（重大事故） 年間8件

- ・ 概要 転倒による怪我6件（骨折6件*うち帰園不能2件） ・ 誤嚥1件
所在不明後に園内で転倒しているのを発見1件

2) 軽微事故報告 年間81件

- ・ 概要 転倒 15件、外傷1件、紛失3件、誤嚥1件、暴力1件、異物混入1件
誤薬・配薬ミス5件 無断離脱5件、
対応（忘れ19件、ミス23件）、その他7件

3) ヒヤリハット報告 年間151件

- ・ 概要 転倒（怪我なし）125件、利用者に関するもの5件 職員の対応に関するもの21件

4 福祉サービ第三者評価受審

- ・ 評価機関 特定非営利活動法人 ごとくの会
- ・ 実施期間 2022年10月
- ・ 「利用者に対する調査」及び「事業評価」を受審

【評価内容】

評価としては「事故の再発防止と対策の取り組み」「パソコン情報管理システムによる利用者情報の共有」「健康管理の取り組み」について高く評価された。
 「長期的な展望に連動させた育成計画の取り組み」「経過推進に向け定期的な進捗状況の確認」マニュアル等リスト化して定期的な見直し」についてはさらに改善が必要と評価された。
 利用者調査では、「入浴時間」「病気やけがをした時の職員対応」と同率で「状況に応じた見守りや声掛け」「施設内の清掃、整理整頓」が高評価であった。一方、「外部の苦情窓口の周知」「個別計画書作成時の要望の聞き取り」などの項目の評価が低く、利用者に理解を得られるような説明が求められている。

Ⅱ 事業課題への取り組み

1 利用者の個別状況に則した支援の実践と支援内容の質の向上

	項目	実施内容
1	利用者の意思を尊重した、質の高いケアの実践 【評価】： A	【取組状況・成果】 ・支援計画策定において利用者の生活の希望を聞き、各職種が意見をだし支援計画カンファレンスで協議し支援計画に反映させた。 ・支援計画カンファレンス及びフロアミーティングで支援内容を評価し見直ししながら、会議録や支援記録、「職員掲示板」を活用し、情報の共有化を図ることができた。 【今後の課題】 ・支援計画の目標を実現するため、P D C Aサイクルによる支援の検証と改善。 ・一貫した支援のために継続的な情報の共有と利用者の状態変化に合わせたタイムリーな見直し。 ・職員の対人援助技術の向上。 ・利用者との日常的な関わりやニーズの把握に加え、支援計画作成時における要望の聞き取りを今まで以上に意識的に行うこと。
2	利用者本位の生活支援の実践 【評価】： B	【取組状況・成果】 ・新型コロナウイルスについては社会情勢に鑑み、集団生活であるがための規制内容を常に見直し、実施可能な催しや活動を実施した。 ・利用者の心身状況を個別にアセスメントし、施設備品や介護保険レンタル品を活用した居室環境整備を行う等、生活環境への配慮を行った。 【今後の課題】 ・コロナ禍でも実施可能な催しの範囲や規模を安全確保しながら広げていく ・利用者個別の要望に応える支援（個別支援） ・利用者担当職員が利用者の要望を様々な方法でくみ取り、対応すべきことを把握する。 ・要介護状態が重くなっていく利用者も少なくない中、利用者個々の状況や共通のニーズに応じ、様々な社会資源を活用した生活環境の整備を行っていく。
3	安全対策の強化及び事故防止の徹底 【評価】： A	【取組状況・成果】 ・前年度同様に引き続き支援記録から事故報告書を効率良く作成ができた。 ・作成された事故報告書を朝のミーティング内で周知し、再発防止策までそのミーティング内で意見を出し決定し、周知することで、昨年度の今後の課題に取り組んだ。 ・事故苦情対策委員会内で、事故で一番多い転倒・転落が起こる時間帯や場所を分析し、居室（特にベッド付近）の起床時間帯の事故が多いこと

		<p>から、起床時に行うと良い体操を理学療法士に提案してもらい、施設リハビリ等を通じて、取り組む準備を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設リハビリ（毎週日曜日）は、新型コロナの感染者が利用者に出た時は、やむなく中止にしていたが、感染が落ち着いた際は再開し、転倒予防対策に努めた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故報告書の作成と対策の周知はできつつあるが、再発防止対策後の効果や対策の継続の確認及び対策の適正を見直す機会をつくっていく。
4	<p>施設運営へ利用者意向の反映促進</p> <p>【評価】： B</p>	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> フロア別懇談会及び利用者懇談会は新型コロナウイルス感染対策及び施設内の感染拡大もあり全体懇談会は一度実施するに終わり、利用者の意向を十分に聞く機会を作れなかった。 福祉サービス第三者評価の利用者調査と事業評価を受審した。 行事食を提供した際に利用者に食事アンケートを行った。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの動向を加味しながら、感染対策を講じて全体懇談会を実施し、個別の意見をくみ取るため利用者意向調査（アンケート）を実施する。
5	<p>「健康の維持」 「食の楽しさ」に向けた取り組み</p> <p>【評価】： A</p>	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事の質の向上のためセントラルキッチンとの密接な連携を目指しているが、料理の評価や出来上がり状態の希望の伝達に留まっている。 卵製品を含む食材の品薄に対応するため既存の業者と密に連絡を取り、食材の確保を行い問題なく料理を提供出来た。 今回の卵不足を踏まえて大豆製品メニューの追加を検討した。 食事サービス委員会を中心に「祝い膳(敬老)提供後のアンケート実施」や「イベント食(お楽しみ食、フロア別献立)」を企画し実施した。 昨年度好評だったフロア別出来立て料理の提供を食事サービス委員会が中心となって検討し、「ラーメン」を提供した。提供時に味を選ぶことに拘った企画だった。醤油と味噌の2種類を用意し、味噌ラーメンは今回のために新しいレシピにした。フロア食堂で麺上げやスープの温めを行い、利用者から普段の献立より熱々で美味しいと好評価であった。 ADLに合わせて嚥下機能低下に対応するトロミ食や水分量を変更した食事の提供やタンパク制限、塩分制限、カリウム制限に対応することで個々の利用者の状況や希望に沿った「食」を提供することができた。 セントラルキッチンを中心とした食事提供の利点を活かし、嚥下が低下している利用者に対し、第二万寿園で提供しているソフト食を提供した。 節句料理(端午、七夕、正月、節分、ひな祭り)、敬老祝い膳、母の日・父の日の料理、クリスマス食、年越しそばなど、日本の季節や伝統的な行事に合わせた料理を提供した。 新型コロナウイルス感染症対応により昨年度は実施出来なかった「お楽しみ食」を前期(鰻かば焼き、カレーうどん、ハンバーガー)行った。カレーうどんとハンバーガーはオリジナルレシピを検討し、利用者から好評であった。また感染症対策として会場前での手洗いの徹底、テーブル数や配置の制限、テーブルにパーテーションを設置する対応を行い実施した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対応し、フロア毎に出来立て料理を楽しむ機会の拡充や、少人数で食事を楽しむことが出来る方法を検討する。 アイテムを絞った食べ放題にするなどバイキングの形式を変えてフロアの食堂で行える方法を考える。

6	<p>医療機関との連携協力による健康維持の推進</p> <p>【評価】： B</p>	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医及び、他医療機関と情報交換を密に行い、入退院判断及び受診先との連携に努め、疾患の早期発見・早期治療を目指した。 ・園での新型コロナウイルス感染者発生時には、外部の医療機関の受診は不可であったため、各病院へ電話診察による処方薬を受けられるよう対応した。 <p>2022年度はコロナウイルスが蔓延してしまい、重傷者のみ病院へ搬送した。(救急車要請など)</p> <p>ほとんどの利用者を職員間協同で診る形になり、居室内での隔離を余儀なくされた利用者が多数になってしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間緊急受診に対応するための利用者の個人ファイルの更新はできたが、緊急時受診のマニュアル作成はできなかった。 <p>(2023年度には必ず作成する)</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急受診時の対応マニュアル作成に早急に取り組む。 ・熱発者の受診は、対応してくれる医療機関を探すのに苦労した。今後は発熱外来の受け入れ可能な医療機関をリスト化し、利用者への受診対応をスムーズに行えるようにする。
---	--	---

2 地域とともに支え合う施設づくり

項目	実施内容
1	<p>地域支援・地域交流の促進</p> <p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により、保育園との交流や地域交流納涼大会、いきいき健康講座、体操教室、日曜レストラン、近隣施設との利用者交流は中止した。 ・近隣の小学校との交流を予定していたが市内でのクラスター情報もあり、小学校とも協議し中止とした。 ・新型コロナ流行前の2019年度以来の実施となった「お年寄りの作品展」へ、手芸クラブの作品の展示と見学で参加することができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援・地域交流を再開させることを統括事業所第二万寿とともに検討する。
2	<p>利用者ニーズに応じた地域資源の活用</p> <p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度への課題としたボランティアの受け入れについては、買い物代行ボランティアとクラブ活動(手芸・書道・華道・コーラス)の講師を受け入れるに留まった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師ボランティアについては長期間に亘り活動への協力を頂いたが、退任を希望される方がいるため、次世代ボランティアの募集の必要がある。

3 健康管理・感染症対策への取り組み

項目	実施内容
<p>1</p> <p>感染症予防等</p> <p>【評価】： B</p>	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年7月8月にも感染者が出たが、11月12月には感染拡大してしまい、ほとんどの利用者が罹患してしまった。体調悪化の方は救急搬送を行い、他の利用者は施設内で病状観察した。保健所との連絡や嘱託医との連携も行った。施設内での隔離には、利用者の協力を完全には得ることが出来ず（認知症などで）蔓延してしまった。 隔離の協力を得るためにはどのようにしていけば良いか課題である。 「新型コロナウイルスによる全国での感染が拡大している状況の中、「厚生労働省」「東京都」などからの情報をもとに、日々変化する状況に対応すべき課題について職員への周知と対応に努めている。 2022年12月にほとんどの利用者が「コロナウイルスワクチンオミクロン株」（5回目）の予防接種を済ませた。新入所の利用者などに対しては、それぞれにコロナワクチンの対応をすすめている。予防接種の際には安全に配慮し（利用者・職員）接種後の熱発者の対応も万全であった。 感染者発症時に効率よく使用できるよう、隔離対応で使用する備品や衛生品を平時からカゴにまとめておくよう整備している。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常勤職員も含めた感染症予防研修の継続と、感染症発生時における拡大防止等の的確な対応が必要である。感染発症時及び状況の変化に全職員が一貫性のある対応を行うため「感染症対策会議」を適宜開催する。 居室をはじめ全館の換気については、毎日全館放送で利用者及び職員へ呼びかけ、その他の感染対策については、職員や利用者へ感染症の情報提供をその都度行っていく。 普段から「新型コロナウイルス」への新しい情報収集を行い、対応及び事業継続を考えた準備を今後も継続していく。
<p>2</p> <p>利用者の健康管理</p> <p>【評価】： B</p>	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のため、施設全体で毎日利用者の検温を実施した。今後は政府の対応などをふまえて、施設での対応を検討していく必要があると思われる。 利用者の健診結果を受け嘱託医の指示のもと、利用者に対する早期対応を心掛けた。 PTによる週1回日曜日のリハビリは感染対策を考えた実施方法を検討し再開した。リハビリ体操は利用者も楽しみにしている。換気・消毒等感染対策を徹底し継続していく。 肺炎球菌ワクチン対象者の接種を地域の病院で実施した。（毎年15名ほど） 定期受診や緊急受診に関して、病院との連携をはかり、受診時には安全に対応できた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の健康診断（検尿・体重・血圧測定）は、感染対策をしっかりと行っただうえで、年2回必ず実施する。 コロナ禍で様々な活動が中止延期されるなかで、利用者の心身機能の低下が起こっている。その為感染対策を考えただうえで活動を再開し、楽しみの

		ある生活が戻るように考えていく。
3	医療機関等との連携 【評価】： A	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関としての協定を継続する。(緑風荘病院、多摩あおば病院、富士見歯科) ・地域の他の医療機関との連携による受診・入院等(長期療養含む)について看護・相談が積極的に取り組んだ。(東大和病院、東大和セントラルクリニック、多摩北部医療センター、久米川病院、国分寺病院、一橋病院、新山の手病院、白十字病院、緑成会病院、片岡眼科、徳島眼科など) <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々外部での定期通院が困難になった利用者の増加で、施設内における嘱託医受診の増加が顕著である。今後嘱託医との連携をさらに深めていく必要がある。 また療養病床病院、リハビリ病院など新たな病院の開拓・関係の構築と連携を目指す。

4 施設経営基盤の確立・安全管理への取り組み

項目	実施内容
1 養護 稼働率の維持 【評価】： C	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所利用者の生活支援を丁寧に行い、各実施機関から措置先として望ましいと評価されるよう連携し、関係を強化している。 ・緊急入所の相談や対応に苦慮すると思われるケースも、可能な限り受け入れている。 ・各実施機関との連絡の際には、空床状況等を伝える他、郵送でのやり取りが生じた際にも、適宜PRチラシを全措置機関へ郵送した。 ・入所時の移手段などの相談には、個別の事情も考慮し支援している。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人部屋などハード面のデメリットを補うことができる施設の強みや魅力を考えるとともに、一部個室化の検討などを模索する。 ・認知症や精神疾患への理解を深め、対応のスキルアップを図る。
2 事業運営の合理化、効率化に向けた現状の見直しと経費削減の推進 【評価】： A	<p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、夜間の利用者対応が増えている現状に合わせ、宿直・夜勤を各1名の体制へ移行を開始したが、日勤帯の人員の不足にも繋がり、継続が困難であった。 ・単価は小さいが、日々多く消費するペーパータオルやトイレットペーパー、プラスチックグローブなどの消耗品の購入等、比較検討しながら安価な商品に変更していくよう精査してきた。 ・退職者の補充が出来ない状況が続いているため、派遣職員を導入した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物品の購入を担当する管理課だけでなく、支援・相談・調理栄養・看護・リネンなど、全職員が経費削減の意識が持てるように働きかける。 ・消耗品など物品の購入から施設管理費などすべての経費に対し留意し、全経費の削減に取り組む。

5 安全（災害）管理

1	<p>危機管理体制の強化（管理）</p> <p>【評価】： B</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿直する職員を対象に夜間を想定した消防訓練を実施した。 ・今年度は、地震が多く発生し、その時の初動作対応が細かな点で上手くいっていない点もあり、震災時の初行動について見直しを行った。（BCP業務継続、安否確認メール、災害時使用携帯設置） ・感染症発生時事業継続（BCP）作成 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模自然災害発生時における業務継続計画（BCP）の施設の実態にあった計画への見直し ・感染症対策マニュアルの見直し ・施設内の危険個所の見回り点検の定期的実施 ・非常食及び帰宅困難者用非常食の入替購入
---	-------------------------------------	---

6 コンプライアンスの推進

1	<p>コンプライアンスの推進への取り組み</p> <p>【評価】： B</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者から出た苦情要望に対しては、都度、関係部署を中心に内容を検討し問題解決に努めた。 ・個別に指導が必要な場面には職員と面談を行ない、時間を空けずに共に問題点を考えた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に関して、法令に定められている基準や社会的な規範・ルールを理解し、施設に対する信頼を損なうことのないよう、行動指針に基づく点検や啓発を強化する。 ・利用者・施設の財産（金銭）を守るため、決まった手順・ルールを守るという基本を遵守するよう以下の取り組みを行う。 ・新人職員や有期契約職員に対する法人理念に則った行動への啓発。 ・毎年行っている個人セルフチェックの様式を見直しながら、定期的実施する。（組織、個人） ・職員への個別指導
---	---	---

7 職員スキルの向上等

項目	実施内容
1	<p>内部・外部研修</p> <p>【評価】： B</p> <p>【取組状況・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ研修を取り入れ、非常勤職員にも研修の機会を拡充した。 ・研修を受けた後、業務に生かせる点を振り返ったことで、研修の効果を把握することができた。 ・新型コロナが施設内で感染拡大した後、対応の振り返りと合わせて、ガウンの着脱など、詳細な研修を実施した。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで把握した希望を取り入れ、外部の研修受講等にも反映させる ・施設内の研修は研修委員会で、年間の研修を計画的に行う。 ・引き続きビデオ研修を取り入れ、非常勤職員への研修も充実させる。 ・感染症予防のため、オンライン研修に重点を置き実施する。